学校法人 岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校

2025 年度　第2回 教育課程編成委員会

日 時 2026 年 3 月 27 日（金） 16:30～17:30
会 場 横浜リハビリテーション専門学校　604 スタジオにて実施
出席者 斎川 大介 藤沢湘南台病院 リハビリテーション科 理学療法士
錠内 広之（一社）神奈川県作業療法士会 監事
鈴川 仁人（公社）神奈川県理学療法士会 理事（Web 参加）
野々垣 睦美 クラブハウス すてっぷなな 統括所長 作業療法士
橋本 卓雄 校長
渡邊 洋治 担当グループ グループ長
長谷 達也 担当グループ 主幹
瀬古 恵美 担当グループ 教務チーム グループリーダー
水島 眞由美 作業療法学科 前学科長
田中 千恵 担当グループ 教務チーム サブリーダー（理学療法学科 学科長）
机 里恵 担当グループ 教務チーム サブリーダー（作業療法学科 学科長）
森岡 由美 担当グループ 教務チーム 課長補佐（理学療法学科 副学科長）
杉山 修 担当グループ 教務チーム 課長補佐（作業療法学科 副学科長）

内容

1. 学校長挨拶（橋本）

3 月 13 日に令和7年度の卒業式が執り行われました。23 日には国試合格発表にて、PT 74 名中 73 名 OT 学科 42 名全員合格という結果となりました。令和8年度は PT 学科 83 名 OT 学科 41 名 計 124 名の新入生を迎えます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 教育課程編成委員会検討課題

《本日の検討課題について》（瀬古）

・生成 AI 活用について

本校でも学生が AI を使い始めているが、実習等で患者情報を入力すると AI が学習する恐れがあるため、ガイドラインを策定し、この 4 月に学生に開示する予定である。

現在、各医療現場・臨床現場でどのように AI 活用されているか伺い、本校カリキュラムへの活用について意見をいただきたい。

➢　本校での取り組みー活用ガイドラインについてー

AI に入力してはならない内容について説明し、機密情報を入れないことを条件とする。

AI は補助ツールであり、最終判断は学生自身にあること、AI を活用したことを明示すること、ハルシネーションに注意することを中心に伝える。

学生配布資料には、青字で「推奨される活用法」と赤字で「禁止事項」をまとめている。さらに、「AI 利用の手順」を示し、レポート作成などにおいては原典確認などを行うよう伝える。

ただし、AI 活用については 1 年に 1 回は更新し、学生へ周知していく予定である。

【本校ガイドラインについてご質問】

錠内：AI ツールは学生に特に指定していないのか？学園として独自のものはあるのか？

瀬古：ツールは特に指定などはしていない。今後は学園から提供する可能性もある。

➢　臨床現場での活用について

錠内：特にない。学生は活用している前提でいた。指導者がどのように確認するかが課題と考える。

瀬古：何か確認手段はあるか？

錠内：AI に確認させることも可能ではないか。

瀬古：学生の思考も促すために、口頭でやり取りをしながらしていただけると、指導者の負担軽減にもつながる可能性もある。

錠内：感覚的に指導者がわかるとは思うが、AI を使ってできたのであれば、それはそれとして評価していくことも大切かと思う。

斎川：昔の学生は教科書から引っ張ってくるだけのこともあり、思考していないこともあった。今後は AI をどう活用するかを考えていく必要がある。本院でも電子カルテに AI を活用予定である。例えばサマリーを AI で作成するなど。ただ、その時には一次情報をしっかりと入れることが大切になる。そのための研修なども必要になるかと考える。医療現場ではレントゲンなどは AI を活用している。これら、使い方や特性を教えることが大切かもしれない。今後は患者様の動作動画から AI が問題を抽出することになるかもしれない。リハ職は感覚・患者様のモチベーションなどの管理が今後重要になってくると考える。

瀬古：AI を使いこなすことが大切。

野々垣：施設の利用者はハルシネーションを見破ることが難しく騙されやすい。これは一般の人でも生じることだと重いので、学生さんにも AI の活用方法をしっかりと指導してもらえるといいかと思う。

鈴川：当院では文書作成で使用しているが、特に規定はない。論文では気をつけるが各自の判断に委ねられている。実習では担当患者の状態に関して、AI だと本人の考えではないので、そ

の場での学生とのやり取りの中で臨床推論を進めている。学生教育として AI 活用は不適かと考える。他の養成校の学生で「AI がこう言ってたから」ということがあり、臨床推論には用いらないようにとなった事例がある。

瀬古：各施設での AI に関する規定はあるか。養成校に関してはまだ統一されていない。

錠内：AI 以外のセキュリティーの規定作成をまずは行っている段階である。近いうちにできるかもしれないが、現時点ではない。

斎川：現在作成中。電子カルテ導入に伴い、業務を効率化するための内容が中心である。今後はカルテの音声入力にもなるかもしれない。内容の確認は必要になるので、その点に関する規定ができるかもしれない。

野々垣：AI を使用していないのでない。

鈴川：特にない。横浜市の規定があるのみである。電子カルテでも活用していない。

瀬古：教育現場では学習資料として AI を活用しているが本学も規定自体はない。

渡邊：岩崎学園としては教員の業務の効率化に向けて活用を推進している。高校の教科書でも生成 AI の活用方法や使用する際の注意点について記載されるようになった。今後、AI 活用について学んでいる高校生が入学してくる。

瀬古：教員側のブラッシュアップが必要になると考える。

長谷：AI に志望動機を書かせることもあるが、そこからの内容を掘り下げることに注力させる高校もある。

瀬古：本校入試の時も面接で掘り下げて内容を確認するようにしている。また本校学生も履歴書作成などで活用している。

田中：AI 活用している学生とそうでない学生で文章能力差が出る。使わないことを強制することが難しいので、規定を提示していくことが大切と考えている。本校 PT 学科では令和8年度2年生以上は webで講義を受け、1 年生は授業で教示していくことになっている。

机：OT 学科では研究法で教示している。MTDLP は AI が活用しきれていない。患者様の意図をくみ取ることは AI には難しい。

杉山：学生が AI に頼ることで思考力が弱くならないように指導していきたい。

水島：訪問看護では効率化が図れているが、AI へ元情報をどれだけ正確に入力できるかが重要である。

瀬古：本日いただいた意見を参考に、AI をうまく使いこなせる PTOT となるよう学生指導をしていきたいと考える。ただし、AI ではできないことも多くあり、その点も伸ばせるよう教育を行っていきたい。

3. その他

2026年度第１回教育課程編成委員会日程について（田中）

次回の教育課程編成委員会開催は 2026 年９月 11 日金曜日を予定している。

以上

文責；森岡